

資金不足比率

各公営企業会計（水道事業会計、病院事業会計、下水道事業会計）の事業規模に対する資金不足額の割合

経営健全化基準	20.0%
令和5年度	発生していません
令和4年度	発生していません

結論



中津川市の財政状況は…健全です！

財政健全化に関する指標は、各基準を上回ると財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政再建に取り組む必要がありますが、中津川市の健全化に関する指標は各基準をいずれも下回っているため、財政状況は「健全」と言えます。

Q 借返済額は妥当なの？

A 基準値を下回り、妥当な水準と言えます！

借返済額の割合を示す「実質公債比率」は、数値が小さいほど収入に占める借返済の負担が小さいことを表しており、令和5年度決算では基準値の25%を下回っています。

家計に例えると、家や車のローンの返済額が年収の25%以上となった場合、借返済の状態となり、ローン返済に追われ家計が苦しくなる可能性が高くなります。

今後、リニア関連事業などが本格化することから、基準値内における増加を見込んでいます。

Q なぜ借金をするの？

A 将来にわたり公平に負担するためです！

市の公共施設(学校、病院、道路など)は、現在整備を行う施設であっても、将来にわたり継続して使用する施設です。

そのため、建設費用を将来にわたり施設を使用する人みんなで平等に負担するために分割する意味で借金をします。

新たな市庁舎を建設する場合に例えると…



Q 将来に負担はかからない？

A 負担がかかる可能性は低いと言えます！

「将来負担比率」は、借金などこれから支払いを約束しているお金の合計が収入に対して大きすぎないかをチェックするものです。数値が小さいほど、将来財政を圧迫する可能性が低いことを表しています。

家計に例えると、家や車のローンの残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済が必要となる総額が、年収の3.5倍以上になった場合、身の丈を超えた借金であり、円滑なローン返済が難しくなる状態であることを示しています。

中津川市財政の健全化に関する指標

問 財政課 (☎内線437)

財政の健全化とは？

市の財政状況がどのような状態なのか、将来に不安はないかなどを判断するために、決算時に「健全化判断比率」と「資金不足比率」を算定し、公表することが「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」で定められています。財政状況を客観的に表すことで、財政の早期健全化や再生の必要性を判断します。

4つの財政指標で見る健全化判断比率

	実質赤字比率 最も主要な会計である「一般会計」などに生じている赤字の割合	連結実質赤字比率 市民病院や下水道など公営企業を含むすべての会計に生じている赤字の割合	実質公債費比率 市の平均的な年間収入に対する借返済額の割合	将来負担比率 市の平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる負債(借金)の割合
早期健全化基準	12.14%	17.14%	25.0%	350.0%
令和5年度	発生していません	発生していません	6.9%	発生していません
令和4年度	発生していません	発生していません	6.7%	発生していません

実質公債費比率と借金残高の推移

健全財政を推進してきた成果として、令和5年度末の借金残高は約559億円となり、市町村合併直後の平成16年度末の約1,107億円から約548億円減少しています。

